

元旦から朝日を拝まずに…

JJ1SXA/池

世に評論家と称する人、称せられる人は沢山いるが、新しい情報・事実を見つけ出し、集められた事実を分析し、新たな論を導き出す、こういう評論をする人は、真の評論家と言えるのでは無かろうか。

まず結論(持論)があり、それを補強するための有利な材料を、アレコレ探し、結論から、事実を導き出す評論家は、偏向的な評論家と言うべきか？そして、「結論に不利な材料」を、意識的にか無意識的にか、除外してしまう。

自分に有利な事実を、必要以上に脚色してしまう、これは「誇張」というべきで、「誇張」が多い評論家となるでしょう、そして時には、ありもしない事実を持ち出してしまふ、いわゆる「捏造」を行う評論家、これは許せない。

評論を評価する時、「偏向」「誇張」「捏造」を見抜き、正当な評価を下すべきで、単純に洗脳されないようにしないといけないと思う、学者にしてもジャーナリストにしても、「偏向」「誇張」「捏造」は当たり前として、言いたい放題の人が多様な気がする、政治家の世界では当たり前なのでしょうが。

話は変わりますが、日本の比較文学者で東京大学名誉教授の平川祐弘氏が、近著「日本人に生まれて、まあよかった」で、「空気を読むな」、「真珠湾攻撃は武士道にかなったものだった」、「言うべきことは言わなければならない」といったような事を書いている、空気を読んで間違い続けて失敗した事例を、氏は、東京大学での教え子だった岡田克也氏らを取り上げて語っている。

家永三郎氏が自身の書いた高校の日本史教科書が検定で修正を求められ、司法に訴えたとき、平川氏のクラスでそのことを取り上げた。

当時1年生だった岡田氏は「朝日新聞」の社説のような意見を堂々と述べた。

その種の「模範解答」を言い続ければ、世論に支持され、ある程度まで必ず出世できるが、それが落とし穴だと氏は言うのだ。

いまや岡田氏も、また、岡田氏同様に朝日新聞的主張を繰り返した土井たか子氏も福島みずほ氏も日本では通用しなくなった、世界でも通用しない、そんな著名人が数多くいる。

岡田氏らの失敗は「元旦から朝日を拝まずに朝日新聞を拝んでいた」ことだなどという真実を付いたユーモアある意見を述べている。

また、日本の国是とすべき大原則として「五カ条の御誓文」を挙げている。

1868年4月6日に明治天皇が公卿や諸侯などに示した明治政府の基本方針である五カ条の御誓文こそ、世界に広めていくべきものと考えます。

(平川祐弘氏関連の内容は、桜井よし子氏の記事の抜粋に加筆しました)

平川氏のこのような、評論こそが、真の評論では無かろうか。 (5.Aug,2014 記)